

第8期(2010年度)SSCS(Small Schools for Civil Society)

インターンシップ奨励プログラム

活動カリキュラム(2010年7月～2011年6月)


■ 団体概要

記入日 2010年2月

団体名 (小さな学校)	特定非営利活動法人 水俣フォーラム
代表者 連絡担当者	代表者:栗原 彬 (理事長) 連絡担当者:林 勝一
団体住所等	〒169-0075 住所:東京都新宿区高田馬場 1-34-12 竹内ローリエビル 401 電話:03-3208-3051 FAX:03-3208-3052 E-mail:mf1997@mountain.ocn.ne.jp URL:http://www6.ocn.ne.jp/~mf1997/ 連絡のつく曜日・時間帯:月曜日～金曜日 10:00～18:00
設立時期	1997年10月 設立
団体の活動目的 と 活動内容	「公害の原点」と言われる水俣病事件を、広く一般に周知する事業を行い、「近代」や「人間」についてともに考える機会を提供するとともに、新たな社会参加の場をつくり出すことによって、社会全体の教育に寄与することを目的とする。おもな活動内容としては、全国各地での「水俣展」の開催(20展、13万人来場、今年は9月に明治大学で開催)、「水俣病記念講演会」の毎年開催(10回、6千人来場)、「水俣セミナー」開講(93回、4千人参加)、水俣病関連書籍・映像の企画、編集、制作など。

## ■ 活動カリキュラム

活動名	水俣病を伝えるための各種事業の運営および事務局補佐
主な活動場所 最寄駅と駅からの距離	上記事務所 最寄駅: 高田馬場(JR、西武新宿線、地下鉄東西線) 駅から 徒歩 3 分
スケジュール 2010年7月3、4日 ＜前期＞	*カリキュラムは、状況や事情により変更となる場合があります。 <b>「事前研修と入校式」</b> ●法人運営に関する業務 ・オリエンテーション(水俣フォーラムについて) ・日常業務に関する事務補佐(資料整理、案内発送、書籍・映像ライブラリー管理などのうちから担当業務を決定) ・事務所スタッフ会議、運営委員会などへの参加(当法人の事業の概要、運営の仕方を把握) ●主催事業に関する業務(準備会議への参加、各種事務処理、広報、ボランティアとの協働など) ・「水俣・明治大学展」プレ企画(5月～7月)の開催準備および当日運営 ・「水俣・明治大学展」の開催準備(ボランティア説明会の運営、広報など) ・「水俣・明治大学展」(9月4-19日)の会場運営
2010年11月頃 ＜後期＞	<b>「中間報告会」</b> ・「水俣病読書会」の開催準備(企画立案、広報、当日運営など) ・「水俣セミナー」(11～3月)の開催準備(企画立案から当日運営まで) ・『水俣フォーラム NEWS』編集作業補佐
2011年3月頃	<b>「9ヵ月インターン修了報告会」</b> ・「水俣病記念講演会」の開催準備(企画、ボランティア説明会、当日運営など) ・活動報告書の作成
2011年6月頃	<b>「修了報告会」</b>
スーパーバイザー (統括受入担当)	実川 悠太(事務局長)
メンター (日常的受入担当)	林 勝一(事務局)
活動日・活動時間について	・活動期間中は、週1～1.5回程度、平日(10時～18時)、事務所での活動を基本とします。 ・各種主催事業(水俣展、水俣病読書会)などの催事の前後には、週2日以上あるいは土曜、日曜に活動をお願いする場合があります。 ・1年間を通じて活動できる方を希望します。
団体を理解するための情報について	・『水俣展総合パンフレット』(水俣フォーラム 発行、1998年) ・『証言 水俣病』(栗原彬 編、2000年、岩波新書) ・水俣フォーラムのホームページ ( <a href="http://www6.ocn.ne.jp/~mf1997/index.html">http://www6.ocn.ne.jp/~mf1997/index.html</a> ) ※特に「水俣フォーラム設立趣意書」をお読み下さい(TOPページ→「水俣フォーラムについて」→「水俣を伝えつづけるために」)

<p>インターンに期待すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に専門性や経験は要求しませんが、日常事務だけでなく、企画立案から当日の運営に至る、催事を作りあげていくプロセスへの参加を通じて、NPOのスタッフとして主体的に活動していただきたいと思います。</li> <li>・水俣フォーラムを支える世代も職業も多様なボランティアが活動しやすい環境を整えることが事務局の大切な仕事です。事業の企画、運営に加えて、ボランティアや参加者とのコミュニケーションを通じて、何かを得ようとする意欲をもって活動していただきたいと思います。</li> </ul>
<p>団体からのメッセージ</p>	<p>公式確認から半世紀以上が経過した水俣病は、事件の風化が危惧されています。私たちは多くの方が「水俣」に出会える、開かれた場を創出し、今一度、私たちの社会を問い直すきっかけにしたいと思います。本カリキュラムの目的は、当法人の運営にインターンとして携わりNPOの現場に学んでいただくことにありますが、それ以上に参加者自身にとっての「水俣」に出会っていただければと思います。</p>
<p>団体の写真</p>	<div style="text-align: center;">  <p>水俣展を運営するボランティアスタッフ      多彩な識者を招いての講演会      水俣病ライブラリーを備える事務所</p> </div>
<p>修了生からのメッセージ</p>	<p>事務所での活動やボランティアの方々との交流を通じて、自分がいかに狭い世界で暮らしていたかを痛感。世の中にはいろいろな人がいて、いろいろな活動をしていました。そして組織というものがどのようにして動き、また組織を動かすのがどれほど大変なことか。ただ大学生活を送っていただけではきっとわからなかったと思います。今まではただまわりに流されて暮らしてきた私にとって、ここでの経験は自分の考え方や感じ方が変わる大きなきっかけとなりました。何事も知ることから始まる、そう実感し続けた9ヶ月間でした。</p> <p style="text-align: right;">第6期インターン 前田 玲奈（早稲田大学3年・参加当時）</p> <p>学校職員として働いていた時に「インターン」という言葉を聞かされたとき、自分も経験したかったと後悔。今回、縁があって以前からボランティアをしていた水俣フォーラムで活動することに。ボランティアのときは違った発見が多く刺激的な毎日でした。特に「水俣・明治大学展」に向けて事務局がどのように準備を進めるのかを垣間みることができ、その想像以上の大変さに驚きました。知ったつもりのもので、実際の経験を通じてより深く知れる。私のように大学卒業後も学ぼうとする人にも、インターンの機会をいただけるこのプログラムを通じて得た経験を貴重な財産として今後活かしたいと思います。</p> <p style="text-align: right;">第7期インターン 関沼 洋平（元大学職員・参加当時）</p>